

令和7年度 檜山地域づくり連携会議議事録

日 時：令和7年（2025年）8月28日（木）10:00～12:00

場 所：江差町文化会館（檜山郡江差町字茂尻町 71 番地）

出 席 者：別紙出席者名簿のとおり

講 演：「デジタルインフラと地方創生～地域における社会実装の重要性～」

講師：さくらインターネット株式会社 取締役 前田 章博 氏

議 題：（１）「道南連携地域政策展開方針」について

（２）「地域づくり推進ビジョン」について

意見交換：檜山地域の地方創生に向けて

【檜山振興局 北村地域創生部長】

それでは、定刻となりましたのでただ今から「令和7年度檜山地域づくり連携会議」を開催いたします。私は会議の進行を務めます、檜山振興局地域創生部長の北村と申します。

本会議は、北海道総合開発計画を推進する国と北海道総合計画を推進する道の共催によりまして、国、道、各町や民間団体などの地域の多様な主体が地域の将来像を共有し、それぞれの役割分担のもと、連携・協働による地域づくりを進めることを目的に開催しております。なお、本日の会議の議事内容につきましては、議事録を作成し、ホームページへの掲載という形で公表いたしますので、あらかじめご承知おき願います。

まず、お手元の配付資料の確認をさせていただきます。次第、出席者名簿、配席図、講演資料、資料1-1から資料5までを配付しております。資料に不足がある場合は事務局までお声がけください。

それでは、開会にあたりまして主催者よりご挨拶申し上げます。初めに、北海道開発局函館開発建設部の赤川部長、よろしくお願いいたします。

【函館開発建設部 赤川部長】

ただいまご紹介をいただきました函館開発建設部の赤川です。本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。また本日は、さくらインターネット株式会社の前田様からデジタルインフラと地方創生についてご講演をいただけるということでありがとうございます。また、皆様には日頃より北海道開発行政の推進にご理解とご協力をいただき、改めて感謝申し上げます。

先週の記録的な大雨により檜山管内では土砂流出や、河川の溢水などで多大な被害が発生しております。被害に遭われた自治体の皆様には、心よりお見舞いを申し上げます。また、我々も国道2路線、227号中山峠と229号の乙部町内で土砂流入に伴い長い時間通行止めにしたということで、地域の方々にも、多大なご迷惑ご心配をおかけしました。引き続き安

全安心して住み続けられる地域づくりに取り組んでいかなければいけないと改めて感じているところでございます。

概算要求については北海道開発事業費で 1.20 倍、北海道開発予算全体で 1.19 倍の要求がされたと聞いております。皆様には地域の実情を様々な場面で発信していただき感謝申し上げます。

地域の課題となっている、GXについても我々も出来ることをしっかりやっていかなければと思っております。

昨年度、国の北海道総合開発計画と北海道の北海道総合計画を効果的に推進するという
ことで、地域づくり推進ビジョンを策定しました。ここ檜山地域を含む道南地域においても
新たなビジョンを作成し、道南地域の概ね 10 年の目指す姿として、本州との架け橋である
地理的な特長を生かし、個性豊かな歴史や文化、食や自然の魅力を高め、環境と経済が調和
しながら成長を続けるということを掲げております。後ほど、我々からは地域づくり推進ビ
ジョンの進捗状況についてご報告いたしますが、さくらインターネット株式会社の前田様
からご講演いただき地方創生に向けた取り組みと合わせて意見交換ができればと考えてお
ります。先月、桧山沖と松前沖の 2 区域が洋上風力の促進区域へ指定され、これから動いて
いくと思いますので、活発な意見交換ができる機会だと考えておりますので、本日はよろし
くお願いいたします。

【檜山振興局 北村地域創生部長】

ありがとうございました。続きまして、檜山振興局長の笠井よりご挨拶申し上げます。

【檜山振興局 笠井局長】

皆さんおはようございます。檜山振興局長の笠井です。本日はお忙しい中、会議にご出席
いただきまして、ありがとうございます。

今、赤川部長からもお話がございましたが、先週の大雨で、管内で大きな被害が発生して
おります。被災された方々にお見舞いを申し上げます。私ども振興局といたしましても、被
害状況の把握や災害復旧等、迅速にしっかりと対応をして参りたいと考えております。

それから最近の状況として、ヒグマの出没や食害といった関係でも、各町の皆様が大変ご
苦労いただいている所でございます。私どもとしましても、出来ることとして、電気柵の提
供や、専門的な人材に来ていただくというような取組をしているところでございますが、引
き続き、住民の皆様の安全安心の確保に向けて、各町と連携させていただき、しっかり対応
していきたいと考えております。

こうした中ではありますが、本日の会議では、私ども道庁の関係では、昨年取りまとめま
した「道南連携地域政策展開方針」、この取組状況などについて、ご説明をさせていただき、
ご議論いただきたいと考えております。とりわけ檜山振興局といたしましては、「道南の優
位性を活かしたゼロカーボンプロジェクト」、こうした方向性が極めて重要と考えており、

地域への GX 産業集積を目指して、先月、振興局内に新たに GX 産業推進室といった組織を立ち上げたところでございます。

本日の会議は、こうした考え方のもと、石狩市でデータセンター事業を展開されておられます、さくらインターネット株式会社の前田取締役様から、ご講演をいただくこととしております。脱炭素電源の近くに、データセンターなどの利活用拠点を集積していくという、国の GX2040 ビジョン、こういったものも踏まえまして、このポテンシャルを持っている檜山地域における行政や様々な関係団体に求められる役割などについて、伺えればと考えております。

檜山地域の発展に向けまして、本日の会議が実りあるものとなるように、皆様から忌憚のないご意見をいただければ幸いです。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【檜山振興局 北村地域創生部長】

本日の出席者については、お手元の出席者名簿に記載のとおりとなっております。

なお、本年度から、地方創生の取組をより力強く推進するため、国の関係機関の皆様にもご参加いただいております。国家公務員の皆様は、それぞれの分野で豊富な知見と実践的なノウハウをお持ちになっておりますので、本会議において、こうした国の関係機関の皆様と地域の課題や地域づくりの方向性を共有し、今後、より一層連携を深めながら、地方創生の取組を推進していきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

それでは議事を進めてまいります。次第3の「講演」として、さくらインターネット株式会社の前田章博 取締役にご講演いただきます。ここで、簡単に前田様の略歴をご紹介します。前田様は札幌市のご出身で IT 企業での勤務を経て、2008 年に「IT で、こまったを、よかったに。」を掲げて、インターネットサービス事業などを展開する、ビットスター株式会社を札幌に創業されました。現在は同社の代表取締役を務めるほか、さくらインターネット株式会社をはじめ、複数の IT 企業の役員としてもご活躍されています。また、毎年9月に札幌で開催される、イノベーションをテーマにした産官学連携によるフェスティバル「NoMaps」の実行委員会委員としても活動されるなど、IT と地域を繋ぐ様々な取組を展開されています。

それでは前田様、よろしくお願いいたします。

～さくらインターネット株式会社 前田章博取締役によるご講演（省略）～

【檜山振興局 北村地域創生部長】

それでは議事を進めさせていただきたいと思います。

続きまして次第4の議題（1）道南連携地域政策展開方針について、檜山振興局からご説明いたします。

【檜山振興局 福原地域政策課長】

檜山振興局地域政策課の福原と申します。資料1－1をご覧ください。

道南連携地域の政策展開方針についてでございますが、全部で6つの重点プロジェクトがございます。「交流定住促進」、「ゼロカーボン」、「農林水産業の発展」、「暮らしの安全安心」、「産業活性化雇用創出」、「縄文遺跡の活用」この6つがございます。

資料1-2をご覧ください。ここに記載しておりますのは、6つのプロジェクトに関します令和6年度の主な取組実績です。

交流定住促進プロジェクトについてでございますが、個性豊かな観光地づくりと受け入れ体制の充実に関しまして、「檜山地域歴史文化資源活用検討会」を開催しまして講師をお招きして講演、それからパネルディスカッションを行う検討会を実施しております。

ゼロカーボンプロジェクトについてでございますが、地域住民の方と、理解促進というところで、地域住民向けにカードゲームを活用しまして、「まちづくり×脱炭素ワークショップ」といったものも開催しております。

農林水産業についてでございますが、農林水産業の付加価値向上と販路拡大に関しましては、生産者と食品加工メーカーなどのマッチング会といったものを実施しております。

暮らしの安全・安心の取組についてでございますが、公共交通の維持確保の会議、バス運転手合同就職相談会といったものを開催しております。

産業活性化・雇用創出プロジェクトについてでございますが、企業の働き方改革の推進のために、社会問題とされているカスタマーハラスメントについて、情報や対策を解説しますセミナーを実施しております。

縄文遺跡群の化石につきましては、渡島総合振興局が中心のプロジェクトのため説明は省略させていただきます。

続きまして資料1－3をご覧ください。こちらでは、今年度予定している取組を記載しております。いくつか紹介させていただきますと、交流定住促進プロジェクトにつきましては、渡島地域と連携しました道南地域おこし協力隊の研修会を9月5日に予定しております。地域おこし協力隊のマネープランに関して講演と交流会を行う予定となっております。

ゼロカーボンプロジェクトにつきましては、地域資源を生かした再生可能エネルギーの利活用促進につきまして、管内企業の将来的な洋上風力発電関連産業への参入促進というものを見据えまして、建設工事ですとか、メンテナンスにかかる、従事するための必要な資格取得を促進します。

農林水産業では、ニシンやサーモンといった資源の造成に向けた持続的な種苗放流を推進します。

最後ですが、産業活性化雇用創出プロジェクトにつきましては、産業振興と雇用対策との一体的展開による雇用の創出及び若年層の定着につきまして、地域への外国人受入促進のためのセミナーといった取組を予定しています。

今後、政策展開方針に基づきまして、様々な取組を実施して参るところでございます。説明は以上でございます。

【檜山振興局 北村地域創生部長】

ただ今の説明に関してご意見ご質問など、ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。この議題につきましてはこのとおり取り組みをすすめていただきたいと思います。

続きまして議題の（２）地域づくり推進ビジョンについて函館開発建設部からご説明いただきます。

【函館開発建設部 山田地域連携課長】

函館開発建設部地域連携課の山田と申します。資料は２－１と２－２の２種類ありますが、資料２－１は現在のビジョンの本体となりますので、資料２－２を用いて説明させていただきます。

地域づくり推進ビジョンは、国が策定する北海道総合開発計画と北海道が策定する北海道総合計画、これらを効果的に推進するために、今後１０年のビジョンを示すものとなりまして、全道６つの地域で策定しております。昨年度、この会議の場を活用させていただきました。渡島檜山の道南連携地域の地域づくり推進ビジョンを策定したところでございます。

続きまして２ページ目をご覧ください。現在のビジョンの概要となります。地域の目指す姿、連携地域の現状・課題と記載がありまして、こちらは先ほど振興局から説明がありました政策展開方針の内容を受けたものを整理しております。

食や観光交流など５つのテーマに整理しており、これらのテーマは国と北海道が扱う計画のテーマに少し濃淡がございますので、共通項でテーマを整理したものととなります。

続きまして３ページ目をご覧ください。先ほどの５つに分けたテーマに沿って国と道がそれぞれ行うプロジェクトを整理した表となります。各プロジェクトの欄において、赤字のものは国が推進主体となるプロジェクト、青字のものは北海道が推進するプロジェクトとなります。北海道のプロジェクトについては先ほどの政策展開方針の説明にありましたので、以降は国のプロジェクト推進状況について説明したいと思います。

４ページ目をご覧ください。国のプロジェクトの位置づけを整理した図となります。５角形の頂点に先ほどの５つのテーマをおきまして、これらのテーマに対して７つの国のプロジェクトがぶら下がっているような形になります。以降５ページ目以降で、７つのプロジェクトの状況について説明したいと思います。

５ページ目をご覧ください。「農林水産業・食関連産業の持続的な発展プロジェクト」になります。農業の生産力強化の生産基盤として、渡島地域の北斗用水地区で、かんがい排水事業に着手します。また、今金南地区北地区においては農地再編成事業の完了に向け

て現在取り組んでいるところです。

水産業の生産力強化としては、臨港等の整備であったり衛生管理対策の岸壁等の整備、岸壁補修の長寿命化対策として、久遠、神威脇、青苗などの漁港で取り組んでおります。

農山漁村振興としては、「わが村は美しく-北海道」運動の推進に取り組んでおり、昨年度道南地域では七飯町のにじいろファーム様が大賞を受賞しておりました。

続きまして、6 ページ目になります。「魅力あふれる観光地域づくりプロジェクト」になります。旅行者の受入環境整備として、高規格道路網の整備、またゲートウェイである空港の浸水対策に取り組んでおります。多様な主体との連携による観光地域づくりの推進としては、シーニックバイウェイの取組をすすめており、また地域資源を活用したイベントの企画など自治体と協力しながら取り組んでいるところです。

続いて7 ページ目になります。「地域の強みを活かした成長産業の形成プロジェクト」になります。再生可能エネルギー関連産業の立地促進・育成としては、現在函館港でカーボニュートラルポートの取組をしております。

また、農林水産業の農山漁村の振興としては、北海道マリンビジョンを推進しており、檜山管内ではせたな町と奥尻町で現在取組を進めております。

続いて8 ページ目になります。「ゼロカーボン北海道プロジェクト」になります。脱炭素社会の形成に向けまして、公共工事の分野では北海道インフラゼロカーボン試行工事に取り組んでおり、管内でも実績が出てきているところです。ソーラー式 LED 表示板や、現場の移動の際に電動自転車などを活用しております。

CO2 吸収力の発揮の観点では、港湾及び漁港の静穏域を活用した藻場造成の取組をすすめております。

続いて9 ページ目になります。「自然共生社会・循環型社会の形成プロジェクト」になります。自然共生社会の形成に向けましては、檜山管内の一級河川である後志利別川において流域治水プロジェクト 2.0 グリーンインフラの取組で、多自然川づくりを推進しております。また、循環型社会の形成の観点では公共工事から発生する土砂をリサイクル活用する土砂バンク活用の推進、また河川敷から発生する樹木の伐採木を活用する木材バンクの活用の推進に取り組んでおります。

続きまして、10 ページ目になります。「安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくりプロジェクト」になります。気候変動に伴い、激甚化する水災害に備えまして、後志利別川において流域治水プロジェクト 2.0 を取り組んでおり、ソフト・ハード一体となった治水対策に取り組んでおります。大規模災害に備えたインフラ強靱化の取組としては、乙部防災の事業など、道路の防災対策、また道路計画の観点から無電柱化の取組などを進めております。また、冬期災害や複合災害に対する防災力強化の観点では高規格道路の線形を視認しやすくするための視線誘導標の整備や、冬期間において適時に除雪を行い、冬期交通の確保に努めております。地域防災力の向上の観点では、各種訓練など関係機関との連携強化を行い、また道の駅においては防災拠点化の取組も進めております。

11 ページ目をご覧ください。「共創による多様で豊かな地域社会の形成プロジェクト」になります。生産空間の賑わいの場の創出の観点で、道の駅の魅力向上の取組を進めております。また、デジタル技術を活用したインフラの推進ということで、「i-Construction」に取り組んでおり、さらなる普及に繋がるよう表彰制度を活用するといった取組を進めております。

続きまして 12 ページ目になります。こちらは、現在の第 9 期北海道総合開発計画が「共創」をテーマに掲げておりますので、その取組の一例をご紹介します。

まずシーニックバイウェイ活動の取組となります。道南地域ではシーニックバイウェイルートが 2 ルート指定されております。

みなとオアシスの取組としては、管内では江差港で取り組んでいるところです。

サイクルツーリズムの推進としては、渡島半島を 8 の字で周遊するルートに奥尻島を加えたルートが指定されております。

また、地域マリンビジョンの取組ということでは、管内では奥尻とせたな町において、マリンビジョンの取組を進めております。

13 ページ目をご覧ください。奥尻町で取り組んでおりますホソメコンブを利活用するプロジェクトになります。ホソメコンブを原料とした化粧水の開発や、ブルーカーボン認証など、様々な取組を現在展開しております。次に渡島管内ですが、森町においては処分に苦慮するホタテ貝殻の利活用を検討する勉強会を民間企業の参画を得ながら本年 2 月立ち上げたところです。続いて、物流の関係です。物流問題の対応といたしまして荷主と物流業者間のマッチングイベント「ロジスク」に取り組んでおります。このロジスクの名称は、物流の「ロジスティックス」のロジと、「スクラム」のスクからきており、ここ道南地域においては昨年度開催したところです。最後に、災害対策用機械出動等に関する協定に基づきまして、日頃から訓練等を行っているところでございます。

当部といたしましては、第 9 期北海道総合開発計画の重要なテーマが共創であることから、今後も地域の課題やニーズを踏まえ、共創の取組を推進していきたいと考えております。また、ビジョンのフォローアップのなかで、皆様にご紹介できる取り組みが増えていければと考えております。

【檜山振興局 北村地域創生部長】

ただ今の説明に関しましてご意見・ご質問などはございませんでしょうか。よろしいでしょうか。それではこの資料のとおり取り組みを進めさせていただきます。

続きまして、次第 5 の関係機関からの情報提供に移らせていただきます。北海道経済産業局田中課長補佐よろしくお願いします。

【北海道経済産業局 田中企画調査課課長補佐】

北海道経済産業局の田中と申します。着座で説明をさせていただきます。お手元にお配

りしている資料 3-1 を使って説明をさせていただきます。

2 ページ目に北海道の地図を載せておりますけども、北海道経済産業局が支援する主なプロジェクトということで、金額が大きいものばかりではないですが、様々な取組をしているということで、ご紹介しております。

3 ページ目以降、地方創生 2.0 に関連するような取り組みを紹介しております。主に自治体というよりは企業向け・民間向けというものが多いですが、まず一つ目としては、安心して働き、暮らせる地方の生活環境の創生について、地方から都市部に若者・女性人口が流出しているという状況のなかで、今年度は特に地方に目を向けて、若者や女性、外国人といった方々に選ばれている企業及び地方では、若者や女性等がいきいき暮らしているような様子がございますので、こういった暮らしたい地域みたいなものを実現できるような企業が実施する事例を道内外問わず事例を収集させていただいて、年度の後半にセミナーであったり、事例集という形で見せていきたいと思っております。

それから 5 ページ目でございますけれども、GX の推進ということで、こちら洋上風力のポテンシャルが大きい地域でございますが、当局のなかでも GX 推進チームというのを設けております。様々な観点でグループを設けて取り組みを行っており、NEDO といったような国の機関を含めた事業実施も行っております。今年度は 11 月に十勝で行うことにはなりますが、農産事業者を対象として「GX×地方創生シンポジウム」も予定しておりますので、ご関心ありましたら、ぜひご参加いただけたらと思います。

それから 6 ページ目に関しまして、中小企業向けの支援メニューということでお手元に分厚い資料を配付させていただいておりますが、企業の皆様を中心としたいいわゆる設備投資の補助金を冊子にまとめております。企業向けではありますが、中には農家のトラクターといった生産性向上に関わるような設備投資の実績もございますので、企業・農家等含めて一次産業の皆さまにも使っていただけるような補助金もございますので、是非活用いただければと思っています。

これまで企業様中心の話をしましたが、7 ページ目では、自治体による事業承継支援の促進を記載しております。昨年度、各地域で担い手不足・後継者不足による廃業のお話もあると聞いております。自治体で地域の企業の事業承継を支援する取組も段々出てきておりますので、こういった事例を紹介させていただいたり、昨年度ですと美瑛町、増毛町の担当者と一緒に政策づくりを検討するような伴走支援も実施しておりますので、そういった課題がございましたら是非冊子の方をご覧くださいいただければと思っております。

最後に 8 ページ目ですね、赤字で書かせていただいております。「RESAS」地域経済分析システムの普及促進というのも経済産業局では行っております。最近ですと大学から中学校まで、特に探求とか総合的な学習、そういった中でデータ分析を取り組みたいということでいくつかの学校にお邪魔をしてデータ分析について出前講座なども行っております。

中々、全ての課題に対して貢献できるかどうかはわかりませんが、様々な取り組みを行いながら、地域の皆様と一緒に地方創生であったり地域活性化に取り組んで参りたいと思

いますので、何かございましたら、お気軽に経済産業局にご連絡いただければと思いますので、札幌から各地方に駆けつけたり、オンラインだったり対応させていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日は貴重なお時間いただきましてありがとうございました。

【檜山振興局 北村地域創生部長】

ありがとうございます。資料4 資料5につきましては後ほどご覧いただきますようお願いいたします。

続きまして、次第6の意見交換に移らせていただきたいと思います。

本日の講演内容や、これまでご説明しました国や道の取組状況などを踏まえて、檜山地域の地方創生について、幅広くご意見をいただければと思います。

最初に各町からご発言をいただき、その後に民間団体の皆様方からご発言をいただきたいと思います。お一人4分程度を目安にお願いいたします。

最初に、江差町の照井町長からご発言をお願いいたします。

【江差町 照井町長】

江差町の照井でございます。日頃から、函館開発建設部のみなさん、そして檜山振興局のみなさんには大変お世話になっております。江差町からは先ほど、開建さんのお話にありました官民共創という視点から、少しお話させていただこうと思います。

江差町は人口減少が厳しいですが、何とか民間事業者の皆さんと連携しながら、地域の活性化・維持というものを、試みているところでございます。

特に、サツドラホールディングスとの連携というところで、公共交通の分野でマースを昨年8月から本格運行し、丸一年が経ち、2年目に入ったところでございます。

実証実験も、経産局さん、あるいは経済産業省さん、あるいは国土交通省さんの事業を使って、4～5回実証実験を重ねて、今の本格運行に至りました。

そういった中で、今目標としている数値には概ね達成している状況でして、地元の皆さんの利便性の向上というのは、非常に図られているというふうに思っています。サツドラさんとしては、公共交通を維持することで店舗運営にも寄与するということで、地域貢献をいただいていますし、その間には、国土交通省さん、経済産業省さんのご支援があったからと今の状況ができていると感謝しているところでございます。

今後江差町は道の駅の建設を進めていきます。DBO方式という方式を使いまして、設計から建設、運営まで一体となった発注をして、事業者さんに運営をお願いするということで、事業者が決まって、いよいよ建設に向かっていく段階になりました。事業者は、アイビックという北海道の釣り具を運営している会社とその関連会社のアイビック食品、そしてサツドラさん、コンサドーレ札幌さんという、全て北海道の企業さんが江差町で道の駅の運営をさせていただくということで、非常に江差町としてはありがたいなと思っております。

今、令和9年の開業に向けての準備を進めているところですが、地域の農業者、漁業者、あるいは商業の皆さんとのマッチングをしまして、しっかり道の駅の機能が町全体に循環するような仕組みづくりというのを、進めているところでございます。

また、道の駅の運営をしていただく各社の皆さんには、ふるさと納税への協力というものも計画の中に入れていただいております。江差町は昨年度、1年間で2億5000万円いただいているのですが、もっともっと伸ばして地域の活性化につなげていきたいと思っています。

江差町の弱みとしては、加工する施設が少ないという欠点があります。そこをアイビック食品が加工できる施設を持っていますので、江差町の農水産物を使って加工していただいて、ふるさと納税あるいは道の駅の販売につなげていく、そういった商品開発にもご協力いただくということで、今力を入れているところでございます。

ただその一方で、江差町内の事業者の皆さんの事業承継というのが非常に厳しい状況にあるということが続いています。何とかそれを打破していきたいということで、今年度中に小樽商科大学さんと連携協定を結ばせていただいて、地域の商業をどうやって維持していくのか、担い手にバトンタッチしていくのかといったところをしっかりと考えていかなければいけないと思っております。先ほど、経産局さんのお話の中にも、そういった支援もあると伺っておりますので、ぜひお力添えいただきたいと思っていますところでございます。

最後に一点、先週土曜日に函館で渡島・檜山の首長が集まった中で、観光振興の決議をしました。1000万泊を渡島・檜山で目指して行こうという函館市さんの音頭の中で、一致団結して向かっていこうと思っているところでございます。なかなかそういった面では、交通の部分でまだまだ檜山が弱い部分があるのかなというふうに思っています。そういった中で、運輸局さんのご支援もあって、函館空港から厚沢部・江差・上ノ国を巡る乗り合いタクシーを運行していただいて、非常に利便性が向上しているところでございます。ただその一方で、やはり時間的には1時間半程度かかってしまうというところ、また、先日の災害でも国道227が不通になるということになると、檜山エリアの交通部分が非常に大きなデメリットになるというふうに思っています。そういった面でも、一刻も早く高規格道路の木古内・江差間の開通をして、観光そして地域の暮らしをしっかりと守っていく、そういう取組に繋がっていければと思っております。

引き続き、函館開発建設部さん、檜山振興局さん、関係機関の皆さまと連携しながら地域の活性化に取り組んで参りたいと思いますので、お力添えをよろしくお願いいたします。

以上でございます。

【檜山振興局 北村地域創生部長】

ありがとうございました。マースの実証実験や今後の道の駅など、道内企業と連携した取組や、小樽商科大学さんとの連携などの取組をご紹介いただきました。

続きまして上ノ国町の工藤町長様、よろしくお願いします。

【上ノ国町 工藤町長】

私からはどうしても洋上風力のお話になります。我々も何とか洋上風力をやりたいと、2～3日前から、先進地の秋田県にマイナスの情報ばかり流れて意気消沈しておりますが、それは他の事例でありますので、私は風力産業と言っているが、風力を使って様々な産業をしたいと考えている。先ほども質問したが、その中には DX としてデータセンターを誘致したいとか、トレーニングセンターを誘致したいとか様々。いかにして外貨を使って町の中に環流させるかという方法を模索中であります。その他、照井町長も仰っていた、先週の渡島・檜山の首長が集まって 1000 万泊を実現しようじゃないかという中で、どこの町も宿泊する場所があるのかという大きな課題があります。当然ながら、うちの町も民泊等あるんですが、工事関係者が多く泊まれないといった様々な問題がある。皆様も新聞等でご覧になったかと思いますが、若手事業者 4 人が一般社団法人の e-NaKa という法人を作って、Airbnb という民泊事業者と提携して、町内の空き家を活用した民泊事業を進めていくと。実はこれに JTB も入っています。10 月 1 日に東京で私と JTB と Airbnb との協定を結ぶわけですが、なんとかそういう若い動きを利用しながら、少しでも、特にこれから、陸上風力もやっていますが、当然ながら洋上風力が来た場合にどこに泊まるんだという大きな課題がありますので、民泊等も活用した中で、町内に経済を回すという一点に集中して、これからまた色んな稲穂を付けた中での町づくりを推進したいと思います。

【檜山振興局 北村地域創生部長】

ありがとうございます。風力産業のご期待や、民泊を活用した地域振興などについてお話をいただきました。

続きまして、厚沢部町の佐藤町長様、よろしくお願いいたします。

【厚沢部町 佐藤町長】

厚沢部町の佐藤でございます。私からは 3 点ほどご紹介させていただきたいと思います。

まず 1 点目は、道の駅の改築ということで今取り組んでおります。昨年度に設計を終えて、新しい地方経済生活環境創生交付金の採択をいただいて、今年度から立て替えの工事を実施します。来年 12 月のリニューアルオープンを目指すということで計画をしているところでございます。今までは道の駅の課題として、売り場面積が小さいということでその拡大、バックヤードがなかったためその整備、駐車場が狭いといったことを全てクリアしたいということで改築いたします。これにより集客力の向上を期待しているところでありますし、道の駅に隣接している公園、すぐ裏にあるレクの森という公園もありますので、これからは、公園も道の駅と一体化した利用方法というものも検討していくということにしております。

2 点目は、保育園留学についてであります。昨年度の保育園留学は全国から 168 組の家族にご利用いただきました。そのうち海外の家族が 16 組、約 1 割近く海外の家族だったと

いうことであります。令和5年、令和6年に国と町の助成によって民間が保育園留学専用の滞在施設を建設しました。2棟ずつ2年間で4棟建設しまして、今、利用開始しております。これからこの4棟含めて、全部で10戸の住宅が保育園留学で利用できるようになったので、交流人口、関係人口の増につながっていくものと期待しております。

経済的な効果というものもありますが、だいたい一昨年で4～5000万円が町に落ちているということになっています。町の方に住宅料だったり保育料だったりで約半分ちょっと、残りは地元での消費などとなっています。

まだ正式には決まっていないが、一緒に取り組んでいるキッチハイクという会社が今年中に本社を厚沢部町に移転していただけるような話が進んでおります。まだ公開できるかどうかということですが、今上野の方に本社があり、本社機能に移していただけるという話もしております。今、小学生留学というものも始めました。この間1人来ていただきましたけども、来ていただく人はやっぱりいいなということでもありますので、その辺もこれから色々な面で広げていきたいなというふうに思っています。

それから3点目、令和5年12月に町が100%出資しているまちづくり会社が、お店が全てなくなった地区に「はまなすクラブ うずら店」を開設しております。店が全て撤退したということで、経済的に大丈夫なのか、収支が合うのかといったご意見もたくさんあったんですけども、現在の所概ね均衡しているという状況であります。地域の人には地域の店だということで協力いただいているところであります。これから長期に継続していかなければならないということで、地域の憩いの場、交流の場としての整備をしております。更に防災の拠点として、そういった機能を高めるということで、今年度中に北海道さんの協力をいただいて太陽光発電も設置するということであります。

以上、3点ご紹介申し上げました。

【檜山振興局 北村地域創生部長】

ありがとうございました。道の駅の拡大改築や保育園留学、はまなすクラブさんのご出店などについてお話いただきました。

続きまして、乙部町の寺島町長様から、お願いいたします。

【乙部町 寺島町長】

乙部町の寺島でございます。まずは8月19日の大雨では、6時間において最大の雨量を見舞われ、道路・河川・農地に甚大な被害がありました。その初期対応に対しまして、函館開建さんはじめ関係機関にご尽力いただきましたことを、この場をお借りしてまずはお礼申し上げます。引き続き、復旧に向けた色々なご協力をお願いしたいと思っております。

まずは、昨年この会議でお話しさせていただきました、滝瀬海岸シラフラの展望公園の整備。こちらの方はおかげさまで昨秋10月に無事に完成いたしました。以来多くの来訪者で賑わいを見せているところでございます。そのシラフラ、滝瀬海岸は乙部町の南端、江差町

との境界近くに白い断崖がおおよそ 500m に渡って続き、美しい海岸線を形成しております。当初は、道南ゆかりのロックバンド GLAY さんの聖地として注目をいただいておりますけれども、現在のところはそれ以上に SNS からの情報発信により、多くの方々に知られているところでございます。展望スペースから海岸に至る、高低差 30m 弱の昇降路により容易に断崖間近まで行けるようになり、トイレ併設の休憩所には特産品販売の自販機を置いております。くぐり岩をはじめ、シラフラ海岸を遊歩することにより、滞在時間を延ばし、飲食・宿泊等の地元消費拡大の効果が見えております。今後も、思い入れを持つ人たち、交流人口及び関係人口を増やしていきたいというふうに考えております。

それから、廃校の校舎・体育館の改修工事を進めております。これは学術機関や民間事業者による研究拠点への転用であり、フィールドサイエンスを基盤とした地球環境再生システムの構築と展開という壮大な課題要件の一端を当町で担うことと併せて、地域の子どもたちへ先端科学教育の推進拠点というふうに考えております。学術機関や民間企業の課題解決への優位性や知見・手法を地域と融合させ、移住受入競争や地域資源の安売りに嵌まるのではなく、町の将来生産性を増強していきたいと考えております。

その流れで申し上げますと、豊かな森林、良質な水、温泉などの自然環境、美しい海岸線や街並み、田園の景観は当町の強みであり、町民共有の財産として次世代へ継承させたく、農漁業、林業、一次産業の振興に力を入れるとともに、景観を次の世代に整えていきたいということで、計画策定を進めております。地域の自然環境システム全体の再確認、維持が必要であるからでございます。

それから、一方で、地域のコミュニティの充実促進を図っております。コロナ禍以降、日々の暮らしに町民のみなさんが、安心と充実感を持っていただくよう、地域交流事業の開催に力を入れております。健康教室、地域サロン、モルック大会など小規模なものから、我々行政とは異なる切り口で、町民有志によるイベントも開催されております。また、先々週のお盆時期の盆踊り・花火大会、今週末開催予定の産業まつりなどを通して、高齢者と他世代との多様な触れ合いシーンというものをつくり出していきたい。これは、今回大雨災害でも、避難命令を出した際、痛感したところですが、やはり災害時には地域対応力の核は、日頃からの地域のコミュニケーション力がとても大きく関与しているなというふうに感じたところです。これらの長年の積み重ねが今の町を形成し、これをいかに若年層を取り込んでいくのかというところを、コツコツとやっていきたいなと思っております。

以上、大変雑駁となりましたが、乙部町の取組でございます。

【檜山振興局 北村地域創生部長】

ありがとうございます。シラフラをきっかけとした交流人口の増大や美しい景観の継承、コミュニティ活動の充実などについて、ご紹介いただきました。

続きまして、奥尻町の田中副町長様からお願いいたします。

【奥尻町 田中副町長】

奥尻町副町長の田中でございます。新村町長が本日別用務で出席できないため、代わりに私の方から、当町の取組について発表させていただきます。

去年はこの会議で奥尻町の総合庁舎について説明させていただきましたが、今回は宿泊施設と交通の関係を説明させていただきます。

最初に、今の奥尻町の宿泊施設の現状であります。島では今宿泊施設を経営している方々の高齢化と道道奥尻島線の拡幅工事に伴いまして、廃業してきておりまして、非常に深刻な状況となっております。特にフェリー発着所の奥尻地区におきましては、この度道道の拡幅で2つの旅館が廃業になっております。このため、現在は観光ツアーについては日帰りが可能なフェリー2便体制の7月と8月が中心となっている状況です。宿泊施設の減少は、当町の経済にとって、交流人口の減少に拍車をかけることとなり、地域全体の購買力の低下やフェリー航路や航空路線などの交通網の減便などにも直結する重大な課題であります。特に航空路線につきましては、今年の12月から来年3月までの丘珠-奥尻間の運航が従来の函館-奥尻間の運行に変更することとなりました。このように宿泊施設の減少は喫緊の課題となっているところであることから、町では地域経済の復活と交流人口の拡大を図ることを目的としまして、国の第2世代交付金を活用し、旧役場庁舎跡地に130室規模のホテルを建設するために国の補助金を申請したところであります。この補助金が決定すれば、まもなく通知が来るとおられますので、期待しているところでございます。また、ホテル建設は現在休止しております。フェリーせたな航路の再開につきましても大きく前進すると思われまますので、今後はせたな町や運行会社の奥尻アイランドフェリーをはじめとする関係期間と協議を進めていきたいと考えております。補助金が決定した場合、ホテルのオープンが早ければ令和9年度春を目指しているところでございます。

次に、交通空白地域に対する実証運行事業についてであります。檜山管内ではどこもそうですが、タクシー会社の減少などにより町民の移動などに苦慮している状況にあります。当町においても、島内の交通手段はレンタカー・乗り合いタクシー・バス等であり、このうちレンタカー・乗り合いタクシーには台数や乗車人数に限りがあるために、観光客等が増加した場合、利用できない人が出てきている状況でございます。特にタクシー会社は1社のみで、運転手も1名で対応している状況にあり、非常に厳しい状況になっております。また、バスについては現状人数等による制限の心配はありませんが、便数が少ないことなどにより、移動の自由度が低いため、観光客にとっては利用しにくい状況となっております。なお、バス料金は島内どこでも区間関係なく200円の運賃体系となっているところでございます。こういった背景から当町では島内の交通を観光客・町民共に使いやすいものにするために、今年度の実証運行を予定しており、既に行っているものをご紹介します。

はじめに、グリスロを活用した実証運行についてご紹介させていただきます。グリスロというのは、ゴルフ場のカートのようなものと考えていただければと思います。町内の観光ガイドがグリスロを活用して観光客に奥尻観光ガイドサービスを今月から実証として行って

おります。また、奥尻市街地の主要施設でありますフェリーターミナルをグリスロを用いてつなぐ、町民対象の乗降フェリー運航の実証も予定しているところでございます。なお、グリスロにつきましては、島内実証運航以外にも持続可能な運行体制の構築を行うべく、グリスロドライバー講習を町内で実施できる環境を整える予定となっております。

次にもう1点、公共ライドシェア実証運行について、ご説明させていただきます。観光客及び町民の島内道路利便性の向上のために、町内の希望者数名で運転を行う公共ライドシェアの実証を予定しております。更に、ヤマト運輸さんと連携いたしまして、ヤマト運輸さんが集配用ワゴンを活用し、客貨混載型の公共ライドシェア「島のりあい」の実証運行を開始することとしているところでございます。本事業は既存のタクシー会社に対応できない時間的交通空白地域を運行する形で明日29日からスタートすることとなっております。本事業は町民の病院への通院や、飲食店の帰りの移動、観光客の移動手段としての活用に期待しているところでございます。

このように令和9年度のホテル開業と島内の交通手段の情報提供を当町からご説明させていただきました。私からは以上でございます。

【檜山振興局 北村地域創生部長】

ありがとうございました。新たな宿泊施設の建設や島内の公共交通の現状やライドシェアの新たな取り組みなどについてご紹介いただきました。ありがとうございました。

続きまして、今金町の中島町長様、よろしくお願いいたします。

【今金町 中島町長】

日頃から函館開発建設部並びに檜山振興局の皆様には大変お世話になっております。

今金町につきましては、明日今金米の初出荷受入がスタートします。去年から比べ8日早いということです。実なりの状況は順調かなというふうに思っています。農業の関係で言うと先ほど資料の中でもありましたけども、国営緊急農地再編整備事業を実施させていただきました。今年で13年目ということで本格工事の方が終了いたします。総事業費520数億円の実業でありまして、農業の形態が大きく変わりました。労働時間が極端に縮小されたほか、浮いた時間でミニトマトなどの報酬作物の生産ができるということで、特に若い後継者のみなさんが、儲かる農業の実感をしている。この事業の効果はそういった意味でも大きい。それから、大規模化したことにより圃場のものについてはスマート農業が進みましたので、トラクターや田植機は自動操舵でやっておりますけれども、衛星を使ってRTKの基地を使いますので、誤差も2〜3cmしかない。今年からドローンを使っての田植えを初めてやることができました。通常の田植方式よりも2〜3割減かなという予想で注目していますが、それにしても、そのままドローンで作業ができるとなると、ハウスも苗箱もいらないといった利点もあるのかなと。それからこの事業の大きな点は、奥さん方、女性の皆さんが経営に参画するようになっており、ドローンやトラクターの免許もたくさんの方が取っ

ている。なぜかという、女性の方が大きい圃場で安心して運転できるんですね。農協宣伝部の中心になっている部長さんに言わせると、農水省にも、財務省にも話をして随分うけましたけども、一番の効果は夫婦喧嘩がなくなったと。これが国営事業の最大の効果ということで、国の方にもお伝えをして参りました。

それから一級河川もありますので、令和4年に大きな災害がありましたけども、この間、函館開発建設部のみなさんと一緒に減災など色々なことを共にやってきているところですが、今のところ直接的に雨の被害を受けるということはおかげさまでないんですけども、ただ減災だけじゃなくて、ご紹介のありました「川に親しむ」というところで守っていくというようなこともありますので、これはせたな町さんと一緒に色んな事業を展開できればなというふうに思っております。

それから、地方創生のことで言いますと、林業6次化ということで去年お話をさせていただきましたが、今年度第二世代交付金の方も活用が決まりましたので、この1～2年、今金町の林業にまつわるポテンシャルについて調査研究してきましたけども、今回検討会を立ち上げました。令和9年にはできれば地域商社というものを設立して、森林の管理伐採や製材加工、それから流通・販売までを町内で完遂できるような動きにして、そこにまつわる交流人口であるとか人材だとかということで、人口減少対策にもつなげていきたいということで考えておりました。

それから、新たな流れということでは、ピリカスキー場に今シーズンはインバウンドの方が60～70名来ました。今まではこんなことがなかったんですよ。色々調査をしてみると、ニセコから来ていると。どうしてかということ、時間でいうと2時間で来られる。ニセコは高く、混んでいるということで、それに満足できないといった方が、ピリカスキー場にミニツアーという形で来られているということです。色んな国の方が来ておりました。平日はプライベートスキー場に近いところもありますので、そういう意味ではこれからスキー場といえますか、ピリカ地区の方に新たな需要が出てくるのかなと考えております。

また、陸上の風力発電の外資系の大きなところも何社か計画の調査を始めているということもありますので、ゼロカーボンを含めて地方創生の本旨に沿った形で今金町も努力を進めていきたいというふうに考えておりました。

以上、簡単ではありますが、今金町の取組について紹介させていただきました。ありがとうございました。

【檜山振興局 北村地域創生部長】

ありがとうございました。国営事業によって、儲かる農業ができるようになったことなどをご紹介します。

続きまして、せたな町の佐々木副町長様、よろしくお願いいたします。

【せたな町 佐々木副町長】

せたな町の佐々木でございます。どうぞよろしくお願いいたします。本来ですと町長が参るところでございますが、所用により代理出席ということになりますので、よろしくお願いいたします。

まずはじめに、函館開発建設部、檜山振興局、その他の関係機関の皆様には日頃から大変お世話になっております。この場をお借りいたしまして厚くお礼申し上げます。

少子高齢化・人口減少と言われて非常に久しい訳でございますが、せたな町も全く同様な状況でございますけれども、そのような中で、当町の地方創生に向けた取組について、何点かご紹介させていただきたいと思います。

まずは、地域産業・雇用の振興・支援ということで「せたな町産業等活性化補助金」ということで、令和7年度から5年間実施の予定でございます。これは農業、漁業、林業、商工業などの新規起業、異業種参入、新卒者の雇用、外国人技能実習生の受け入れに対して補助を行っているところでございます。助成率につきましては最大3分の1、上限100万円でございます。なお、雇用の奨励につきましては上限50万円となっております。現在のところ、外国人の技能実習生ですけれども、町内104人いるという状況ですので、例えば介護施設などで大きな力をいただいているところでございます。

次に、次世代型店舗づくり補助金ということで、昨今のキャッシュレス決済の導入につきましても補助しますということでございます。更には、省エネ対策、店舗の環境整備など店舗の効率向上、顧客の利便性向上を図るために、これも補助率3分の1、上限100万円ということで、事業を行っているところでございます。

更に、農業関係では令和6年度からスマート農業支援事業ということで、ドローンやGPS搭載のトラクターなど、これからの農業発展のために必要な事業について支援を行っているところでございまして、農家さんには大変喜ばれているところでございます。

次に地域おこし協力隊ですが、現在6名おられます。そのうち4名は事業型派遣ということで企業に派遣されましてご活躍いただいております。これも継続して取り組んでいきたい。3年後起業される、あるいは事業を継承されることに非常に期待をしているところでございます。

それから先ほど上ノ国の工藤町長さんも仰いましたけれども、洋上風力の関係でございます。工藤町長からは「風力産業」という言葉がございました。これは非常に裾野の広い産業と私は理解しておりまして、中央港湾のせたな港でございますが、これはO&M港ということで非常に期待をしておりますし、発電事業者や電力会社が最近随分視察に訪れておりまして、ヤードの利活用ですとか様々な意見等をいただいているところでございます。

また奥尻町さんからもございました、ホテルの建設が130室ということですから、休止状態にあります、せたな航路再開に向けて観光客の誘致に繋がる取り組みだと思っておりますので、ぜひとも進めていきたいなと思っているところでございます。

私からは以上でございます。ありがとうございました。

【檜山振興局 北村地域創生部長】

ありがとうございます。地域産業や雇用の振興をはじめとした、様々な支援事業についてご紹介いただきました。

続きまして、檜山建設協会の小林会長様、よろしくお願いいたします。

【檜山建設協会 小林会長】

檜山建協の小林です。限られた時間ですけども、洋上風力大事業の一端と、地元関係会社との関係性について、当協会の現状を少しお話させていただきます。

4月中旬、我が町上ノ国町職員さんと、4月末から6月初めにかけて、檜山振興局の皆様と、隣にいらっしゃいます檜山商工会連合会の方等々で、前者が富山県入善町、後者が秋田県の3箇所、先進地視察をさせていただきました。檜山振興局の皆様には、その節は大変お世話になっております。役所さん先導ではなく、近い将来、民間人が率先して先進地に行くという行動を我々が起こさなければならないと思っております。研修レポートも檜山振興局さんが作成してくれまして、この中に私の容姿とよく似た2人が写真に入っております。資料は十分わかりやすく、一般の人にも関係業者にもとても理解が進む内容だと思っております。その中で振興局さんの今後の取組という項目がありますが、私としては民間関係者をより取りまどめて、より多く先進地訪問の機会を設けて欲しいなど。同時に民間の率先した行動も期待して協力していきたいと考えております。また、洋上風力の勉強会も都度企画してくれておりますが、その必要性は大変強く感じております。当協会の若手が9月末に、九州の方に先進地視察を計画しております。その際も振興局の皆様のご指導ご鞭撻をお願いしたいと思っております。

上ノ国町長が発言しましたけれども、昨日今日の報道を見て私は一般市民として大事業の推進の難しさといいますか、次元が違うかも知れませんが、大変ショッキングな気持ちでいっぱいです。その後の情報を今日いらっしゃる開発建設部の方々、檜山振興局の方々、また関係者の皆様からの情報等々も期待しながらこれからの洋上風力に対しての我々のアクションももう少し具体的にできればなど同時に思っております。

とりとめのない話で申し訳ないですが、以上で終わります。

【檜山振興局 北村地域創生部長】

ありがとうございます。洋上風力に向けた取組の重要性などについてお話しいただきました。

続きまして、檜山管内商工会連合会の櫻井会長様、よろしくお願いいたします。

【檜山管内商工会連合会 櫻井会長】

檜山管内商工会の櫻井です。日頃、函館開発建設部の皆様、それから振興局の皆様、関係機関の皆様、いつもありがとうございます。この場を借りてお礼を申し上げます。

隣で小林会長がお話しされた洋上風車について、私の観点から少しお話しさせていただきたいと思います。洋上風車の話が出てきて、最近促進地域へも認定されました。そして振興局の方ではGX産業の担当室を作っていただいたと。非常に良い話だと思っております。実は皆さんもご存知かと思いますが、檜山ではやはり人口が非常に減少しております。それに新しい産業が来ていただけないという状況が多いです。そうした中で、この洋上風車をどのように推進して、人口減少の歯止め等々、どのようにしていけば良いのか。私は4月30日から5月2日まで、秋田の方に一緒に行ってきました。振興局の方も含めて9名で行ってきましたけれども、そのとき1つ非常に感じたことがあります。先ほど宿泊の話も少し出ていましたけれども、洋上風車の進みと観光の繋がりが合致した中で、この事業を展開していくことが非常に不可欠であると思います。ただ洋上風力の関係で来る方々だけのために宿泊施設を作りなさいというのは、施設が出来たあとの運営については、大変なことが起きてくるだろうと。しかしながら、観光を併せた中で、そういうものを作り上げていくとなると、ずっと継続することになるだろうと思います。洋上風車は作れば30年は続くということを聞いておりますから、檜山の位置づけを変えるひとつの力になるんじゃないかと思っておりますので、是非この話を私たち商工会、建設協会、民間の方はもちろんですが、振興局の方々から今日お集まりしている7町の首長さんの方々のお力添えをいただいて、一緒に小さなまちの連携づくりを、この2本立てを是非繋げていければ良いのかなと、秋田に行ったときに非常に感じた次第です。まだ中身をどのようにやっていくかということはまだやっておりませんから、どのようになるかはわかりませんが、私が感じた面ではそういうものを遂行することが、檜山全体のひとつの突破口になるのではと思いましたので、どうぞよろしくお願いします。

簡単ですが、以上となります。ありがとうございました。

【檜山振興局 北村地域創生部長】

それでは、本日いただいたご意見などを踏まえまして、函館開発建設部の赤川部長から、一言よろしく申し上げます。

【函館開発建設部 赤川部長】

函館開発建設部の赤川でございます。

様々な観点からお話しをいただきましたが、まず我々としては先般の大雨による国道227号中山峠と国道229号乙部町内の災害通行止め解除に一定時間かかったところで、国土強靱化の取組を進めて参りましたが、引き続き進めていくことが重要と再認識したところで。また、皆様から、道路ネットワーク整備に関するお話もいただいたところで、引き続き取組を進めていかなければいけないなと改めて感じているところでございます。

また、照井町長と佐藤町長から道の駅のお話をいただいたところですが、引き続き、函館開発建設部として様々な面で協力をさせていただきたいと考えております。

あと、洋上風力関係については、北海道開発関係予算の中でも、ゼロカーボン北海道の実現や、デジタル関連産業の集積支援を打ち出しておりますが、函館開発建設部としては港湾等の公共施設整備を通じた取り組みを進めていく必要があると考えております。また、檜山建設協会の小林会長からのお話にもありましたが、地域の建設業が洋上風力のプロジェクトにどのように関わっていけるかが重要と考えておりますので、引き続き、意見交換をさせていただきながら進めていければと思います。引き続き皆様と連携して、様々なことを進めて参りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【檜山振興局 北村地域創生部長】

次に檜山振興局の笠井より一言申し上げます。

【檜山振興局 笠井局長】

意見交換では様々なご意見、取り組みの状況についてご説明いただきまして大変ありがとうございました。多種多様なので、本当はそれぞれ一言コメントさせていただきたいのですが、時間も限られているので、そこはちょっと省略させていただきたいと思います。

今日ご講演をいただいたところでございますけれども、この檜山地域は再生可能エネルギーに大きな強みがあると思っております。新たな産業集積だけではなく、地域の発展にどうつなげていくかが、重要なポイントになると思っております。

さくらインターネットの前田様からも、データセンター等に関して、送電網とセットで、あるいは人やソフトウェアともセットで、新しい時代のモデルを作っていくというような考え方を示していただいたところでございます。

そうしたご講演内容ですとか、皆様からいただいたご意見を踏まえて、GX や AI 活用の取組の推進、また、そうしたものを檜山地域の活性化にしっかりとリンクさせていき、それを檜山の発展に結びつけていくということを行って参りたいと考えてございます。

各町、関係団体の皆様、そして今日ご参加いただきました国の関係機関の皆様、赤川部長ともしっかり連携させていただきながら、対応、取組、進めて参りたいと考えております。本日はどうもありがとうございました。

【檜山振興局 北村地域創生部長】

それでは、皆様には、長時間にわたり、貴重なご意見を賜り、ありがとうございました。今後とも皆様と連携・協働による地域づくりを進めて参りたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは以上をもちまして、「令和 7 年度檜山地域づくり連携会議」を終了いたします。本日はありがとうございました。